

豊中市教育委員会の権限に属する事務の点検及び評価委員会
令和 8 年度（2026 年度） 第 1 回会議 議事要旨

日 時 令和 8 年（2026 年）6 月 23 日（火）14 時～16 時
場 所 庄内コラボセンター 会議室 2
会議形式 集合
出席委員 宮村委員（委員長）、山内委員（委員長職務代理者）、開沼委員
事務局 森山事務局長、厚東教育政策監、正岡理事 ほか
傍 聴 1 人
会議録 下記のとおり

開 会

当 委 員 会 に つ い て

事務局から資料に基づき説明

資料 1 豊中市教育委員会の権限に属する事務の点検及び評価委員会規則・委員名簿

成 立 要 件 の 確 認

事務局

- ・豊中市教育委員会の権限に属する事務の点検及び評価委員会規則第 6 条第 2 項の規定により、委員の過半数の出席を必要とするが、委員総数 3 人全員の出席をいただいているので、成立要件を満たしている。

当 委 員 会 の 公 開 に つ い て

事務局から資料に基づき説明

資料 2 審議会等の会議の公開の実施に関する要領

- ・当委員会を公開とする。

案件 1 諮問について

教育委員会の代表者である教育長（代理：事務局長）より、当委員会の委員長に手交した。

案件 2 審議について

事務局から資料に基づき説明

用いた資料

- ・資料 4 豊中市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

報告書（案）

- ・資料5 達成指標の目標達成率
- ・資料6 到達指標の目標到達率

委員長

- ・質問・意見等はないか。

委員

- ・今年度より評価の考え方が見直され、昨年度に示された意見が反映されたことにより、評価の内容が従来に比べて明確で分かりやすくなったと感じられた。
一方、達成度では前年度比較しかしていないので、最終的に到達したいゴールにどれだけ近づいているかがこの結果からは読み取れない。

事務局

- ・評価方法に関しては、昨年度の点検評価でご意見いただき、より客観的になるよう評価方法を変えさせていただいた。達成指標については、点検評価報告書の作成前に令和7年度の教育行政方針にて指標を定めていたため、達成指標が定まらなかったところがある。今回は過渡期という位置付けで、前年度よりも上回っているかどうかを目標として定めている。次年度以降については、目標を定めて最終的に到達したいゴールにどれだけ近づいたかを示していきたい。

委員

- ・基本方向ごとの評価結果を出しているため、1つ1つの施策を詳細に評価していないように感じる。重点事項は、打ち出しているが1つの基本方向の中でも、足踏み状態の施策がいくつかある可能性があり、それらへの取組みが今後どうなるのか分からないところがあった。どうしても勢いのある取組みに左右される形で評価しているように感じたが、この点についてご説明いただきたい。

事務局

- ・達成指標だけではなく各事業の到達指標も踏まえて評価をしているが、施策が少ないところは、どうしても偏りがあるように感じてしまう部分があると思うので、次年度に向けて検討する。

委員

- ・どのタイミングで指標が確定するのか。

事務局

- ・指標については、例年、次年度の教育行政方針を立てる際に設定している。今回のご意見をしっかりと受けとめて、見直しを図っていきたいと考えている。また、最初に立てた目標は手直しできないが、今回のご意見も踏まえて最初に設定した指標以外でもし別の指標も考えられるのであれば、そちらも併せて設定していきたい。

委員

- ・「小学校・義務教育学校の教員による保育・授業の相互参観や行事交流等を実施した学校数」の指標について、令和7年度の目標の設定自体が妥当かどうか疑問である。最終的なゴールを短期的な目標でなくても、もう少し先の目標を立てることで、説明が大分変わってくると思う。到達指標を見ると、令和5年度が13校、令和6年度が22校、令和7年度が27校という伸び方を見ればかなり進んでいるという見方もできる。この伸び率を評価するやり方もあると思うので、その辺も含めてご検討いただきたい。

事務局

- ・全校達成に向け年々達成率は上がっていることから、目標としてはのこしつつ、架け橋カリキュラムにかかる指標を追加することで、学校体験や教職員交流等を含めた架け橋プログラムが充実するよう努めていく。

委員

- ・架け橋期のカリキュラムについて、例えば小学校に進学後、その学校が学級崩壊していないか等を確認するようなことは可能か。

事務局

- ・架け橋期の接続の部分と1年生の学級での様子に関しては、各学校での取組みになるが学級の様子を一律で、指標、数値化はしていない。しかしながら、現在指標が学校体験に限られているので、他に評価できる適切な評価基準がないかという点に関しては、検討を進める。

委員

- ・架け橋期カリキュラムの到達指標について、目標39校に対して実績が27校となっており、目標に到達していないのに評価Aとしていいのかどうかという点に関しては、もう少し考える余地があると思っている。目標値に届かなかった理由があれば教えていただきたい。

事務局

- ・目標に届かなかった理由は様々だが、架け橋期プログラムの取組み自体が昨年度から開始したばかりで、今年度から架け橋期プログラムの具体的な議論を始めていく段階であり、これから進化していく取組みと考えている。評価Aがついているから完了したという認識ではなく、今後も引き続き指標の達成度合いも含め、年長と1年生が段差なく地域の子どもたちを育めるよう取り組んでいく。

委員

- ・達成指標の目標達成率のところで、全国平均を上回った設問の割合があるが、小学校の児童は、昨年度よりも伸びているが、中学校の生徒は、昨年度に比べて下がっている。これに関して理由はあるか。

事務局

- ・中学校の生徒の結果が下回っていた理由だが、国語の教科において伸び悩んだ部分があり下回る結果となった。国語の部分に関しては、要点をまとめることや、書かれていることに関して自分の意見、考えを述べるといったところがやや苦手部分があると認識している。

委員

- ・小学校教科担任制の実施教科数について、目標が2教科以上となっているが、令和5年度から達成されており、これを指標にし続けることにあまり意味があるとは思えない。2教科以上というノルマは達成できて、その学校によって創意工夫の内容による質的な違いがある等それが見えるような形で記載してはどうか。

事務局

- ・すでに2教科での実施は全校で達成できているため、専科指導教員による指導や学級担任間の交換授業等、さまざまな実施形態で3教科以上に実施拡大することを指標とすることを検討していく。

委員

- ・ICT環境の整備のところで、ICT支援員派遣回数が目標に対して実績が多いように感じたがどのように考えたらいいか。ICT支援員の役割は、トラブル等の解決に向けて助けていくことなのか、それとも授業づくりに積極的に関わっているのか等どういうニーズがあるのか。

事務局

- ・ICT支援員の位置付けとしては両方がICT支援員の配置目的となる。当然ながらICTを活用した授業というのが展開されている中で、どのような授業でICTを活用したらいいかという相談にのるというのも目的になっており、例えば、部屋の中にある大型モニターが繋がらないというようなトラブル解決もICT支援員が対応している。

委員

- ・豊中の先生方は、どちらの傾向が強いのか。

事務局

- ・傾向としては、どちらかというとトラブル解決や、日々のアカウント管理等が多いと思うが、今後に向けては、授業支援の方向へシフトしていきたい。

委員

- ・教育ダッシュボードで、子どもたち一人一人きめ細かな対応に組織的に活用した学校の割合があるが、これは4校をモデル校にして、そこに教育ダッシュボードを導入したっていうことは読み取れるが、4校の中で一人一人へのきめ細かな対応を組織的に活用したということが、この4校7.6%という数字から見えてこない。例えば、状況の記述のところで4校の違いや以前と比べてどんな変化があるかみたいなことが、見えたらもう少し評価が分かりやすくなるのではないかな。

事務局

- ・先ほどダッシュボードの数について、お見込みのとおり試行実施したところが4校だが、最終的には全校導入となるため、全校に対して7.6%という書き方をしている。しかしながら、きめ細かな活用ができたかという指標については現時点で盛り込めていないので、今後の改善の方向で考えていきたい。

委員

- ・食育の推進のところで、給食調理員の小学校訪問数が目標値に実績が大きく届かなかったと示されているが、これに関して何か理由があるのか。給食調理員の小学校訪問数は増やしていくのが本来の筋であるという考え方自体は変わっていないのか、それとも方針転換されたのか。

事務局

- ・当初はこれまでの実施状況を踏まえ、「全校実施」を前提とした目標を設定していた。受け入れを希望する学校との調整の中で、調理員による実施体制の確保との兼ね合いから実施校を決定するにあたって、実施内容が比較的低学年に効果的なものであることから、重点対象学年として1年生に限定したため、最終的な実施校が19校となった。今後は、高学年にも効果的な実施内容について検討し、訪問校数の増加を図っていく。

委員

- ・学校における働き方改革の推進というところで、学校におけるノークラブデーの実施がずっと100%なので、新たな指標を検討した方がいいのではないか。

事務局

- ・学校におけるノークラブデー実施の目標について、ご指摘のとおり、100%が続いているので、新たに目標設定するのか内容面で修正するかどうかともあわせて一度検討したい。

委員

- ・教職員の平均時間外在校等時間というのが減ってきているが、全教員の平均値であって分散があると思っている。細かいデータを出すというのは難しくても、例えば、残業時間が45時間を超えている、あるいは、80時間を超えている方がいるのかどうか等も出した方がよいのではないかな。

事務局

- ・月あたりの残業時間が80時間、45時間を超えている教員はいる。目標としては、教員の業務量管理及び健康確保措置の別の計画がございまして、そちらの指標と合わせているという面もあり、到達指標としては、この表記としている。一方、分布について、昨年度も採用を検討される方にとっても見える方が参考になるのではないかなというご意見をいただいているのでもう一度検討する。

委員

- ・達成指標の暴力件数について、中学校で増えていることについて補足いただきたい。

事務局

- ・中学校の暴力件数については、実数的には60件ほど増えている。千人率で、9.5件となっている。増えた要因としては、2つあると分析している。1つ目が、繰り返し暴力を振るってしまう子への対応の早期対応が難しかったという点と、暴力を振るってしまった環境において、本人以外への暴力はいけないという全体への指導のスピードではないかと分析をしている。

委員

- ・地域子ども教室の子どもへのべ参加人数が目標に対して実績が届いていないのは、単に少なかったのかそれとも少子化の影響によるものか。

事務局

- ・目標値の設定において、全校児童が一人当たり年に2回参加することをひとつの目安としている。その中で、地域子ども教室を設置できていない小学校区が一定数あるため、そのエリアの子どもたちが参加できていないため数値が下がる。なお、全体の参加児童数は、この間概ね横ばいを維持しており、参加率が悪化している訳ではない。今後は、未実施校区を減らし校区間での体験格差をなくしていく取り組みが必要だと考えている。

委員

- ・コミュニティスクールについて、一定実施し、取り組みが100%になったものについて、今後の質の面をどう見ていくのか、どこを注目していくのか、指標の立て方やこれからの見方が気になった。

事務局

- ・コミュニティスクールにつきましては、全校配置し、取り組みは完了している。今後については内容のところで進展を図っていきたいと考えている。

委員

- ・初めて公民館講座を受講した市民の数が目標値2,200人で実績が807人となっており、目標に届かなかったと考えたらいいのか、それとも目標設定自体に問題があったのか考える余地はあると思う。参加者の延べ人数であるとか、初めて受講した市民の数であるとか、あるいは、リピートして受講した市民の数等それぞれ同じアウトプットでもリピーターであれば満足度の指標として使うことができると考えられる。その辺りも含めて到達指標の見直しをご検討いただきたい。

事務局

- ・学びの支援と学習機会の充実のためには、初めて公民館講座を受講する参加者の獲得と、講座全体の参加者数の増加が重要だと考える。初めて公民館講座を受講する参加者数としての目標設定は、講座全体の参加者数の前年度比5～20%程度が適切と考えられ、現在の目標設定値は過大であると考えするため再検討する。

委員

- ・施策 19 について、地域における学習活動等の推進というのが到達度 0 となっているが、0 になっているという理由、事情について説明していただきたい。

事務局

- ・到達率の積算の仕方が 0 か 100 かで考えており、目標数値に関して達成すれば 100 で、達成できなければ 0 としている。施策 19 については、目標値にすべて到達しなかったため 0% としている。しかし、資料の 6 で到達指標を見ていただくと、例年に近い水準まで届いていることを参考資料の方でお示している。表記の仕方については、表記のあり方も含めて考えていかないとけないと認識している。

案件 3 その他

委員長

- ・案件 3 について事務局より何かあるか。

事務局

- ・次回は 7 月 14 日（火）14 時から 16 時の予定。

委員長

- ・他に質問、意見等はないか。
- ・なければ本日の会議を終了する。

閉 会